

第 3 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

(第 4 号)

1 平成2年9月18日(火曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 24名

1 番 脇田 安保	2 番 永井 龍平
3 番 田沢 勝信	4 番 庄司二三男
6 番 山崎 雅己	8 番 鈴木 勝美
9 番 山口 康雄	10 番 鈴木 忠夫
11 番 神田 守隆	12 番 榎本 春光
13 番 山中金治郎	14 番 小宮 利夫
15 番 横溝 功	16 番 石井 昌治
17 番 石井 謀	18 番 日下 君敏
19 番 川名 正二	20 番 福原 勤
22 番 黒川 平治	23 番 流山源次郎
25 番 渡辺 昭夫	26 番 近藤 好雄
27 番 林 豊	28 番 飯田 義男

1 欠席議員 3名

5 番 岩村 勝弘	7 番 生稲 隆
21 番 辻田 実	

1 出席説明員

市長 半澤 良一	助 役 小幡 清之
収入役 渡辺 弘	市長公室長 錦織 茂
総務部長 二通 英雄	民生部長 佐藤 澄雄
経済部長 安西 良一	水道課長 鈴木 信一
教育委員会 教 育 長 福原 修	

1 出席事務局職員

事務局長 川上 義雄	事務局長補佐 兵藤 恭一
書記 鈴木 哲	書記 鈴木 修一
書記 加藤 浩一	

1 議事日程（第4号）

平成2年9月18日午前10時開議

- | | | |
|------|-------|-----------------------------------|
| 日程第1 | 認定第1号 | 平成元年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について |
| | 認定第2号 | 平成元年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について |
| | 認定第3号 | 平成元年度館山市老人保健特別会計歳入歳出決算の認定について |
| | 認定第4号 | 平成元年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について |
| | 認定第5号 | 平成元年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について |
| | 認定第6号 | 平成元年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について |
| | 認定第7号 | 平成元年度館山市国民宿舎事業特別会計収支決算の認定について |

開 議 午前10時02分

◎議長（渡辺昭夫君） 本日の出席議員数24名、これより第3回市議会定例会第4日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

◎議長（渡辺昭夫君） 日程第1、認定第1号乃至認定第7号平成元年度館山市一般会計及び特別会計決算を一括して議題といたします。

質疑応答

◎議長（渡辺昭夫君） これより質疑を行います。

通告がありますので、発言を許します。

なお、発言の際はページをお示しくさるようお願いいたします。

11番議員神田守隆君。御登壇願います。

(11番議員神田守隆君登壇)

◎11番(神田守隆君) 平成元年度決算についてお尋ねをいたします。認定の第1号についてであります。私の質問は決算事項別明細書に沿って行ってまいりたいと思います。

まず、70ページをお開きください。老人福祉総務費に1億9,696万余円が支出されております。この老人福祉費に関してお尋ねをしていきたいと思ひます。

既に館山市の65歳以上の人口は9,749人ということで、人口比で17.5%にもなっております。館山市民の6人のうち1人は65歳以上だということになろうかと思ひます。これは全県平均8.5%の2倍になっております。館山市の高齢者で特徴的なことは、特にひとり暮らしの老人の比率が際立って高いことでもあります。ひとり暮らし老人の割合は館山市では9.5%と約1割弱になっておりますが、県平均は約4%でありますから、館山市のひとり暮らしの老人の割合はやはり県平均の2倍ということになろうかと思ひます。したがって、館山市は県平均に比べますと人口に対するひとり暮らし老人の割合は4倍ということになろうかと思ひます。私はひとり暮らしのお年寄りがこんなにたくさん堂々と胸を張って生きていけるということは、この土地が、この地域がまだいろいろな意味でお年寄りにとって住みやすいところだということを示しているとともに、この館山市のお年寄りが大変に頑張っているんだということも示していると思ひます。すばらしいことだと思ひますが、同時に市の役割も大変に大きなものがあると思ひます。ひとり暮らしでも頑張っているたくさんのお年寄りを市も精いっぱい応援しなければならないと思うのであります。こうした点から何点かについてお尋ねをしていきたいと思うのであります。

まず第1点は、この平成元年度の施政方針の中で、市長は高齢者が自らの豊かな経験と能力を生かした社会参加と生きがいの持てる充実した日常生活を送れるよう適切な仕事を提供する高齢者事業団の設置を検討してまいりま

すとしておりました。この高齢者事業団についてこの年度の中で御検討をされたかと思うのでありますが、それはどのようなになったのか具体的に御説明をいただきたいと思うのであります。

次に、第2点は、高齢者保健福祉10カ年計画なるものが政府から打ち上げられておりましたが、それによれば、ホームヘルパーは10万人、デイセンターは1万カ所、ショートステイのベッドを5万床にしていこうとしております。単純に人口で割り返すと、ホームヘルパーは館山市で50人、デイセンターで5カ所、ショートステイのベッドは25床ということになるかと思いますが、既にこの10カ年計画の1年目が始まっているというのにその具体的な内容がさっぱり明らかにされておられません。3月の市議会でもお尋ねをしたわけですが、市としての検討はどのように進んでおるのか御説明をいただきたいと思います。

次に、第3点に、ひとり暮らしや老人世帯のお年寄りの健康を考えた場合、その食事がどのようなになっているのか大変気になるところであります。現在給食サービスについて、社会福祉協議会のボランティアによって月2回の給食が行われておるところであります。お年寄りの健康という面を含めて考えた場合、基本的には毎日の食事に対して考慮する必要があるかと思えます。もはやこれはボランティアの方の献身に頼るということではなくして、市の公的なヘルプ事業として検討すべきものではないかと思うのであります。既に全国各地にこうした給食サービスが――まだ一部ではありますが、実施されるようになってまいりました。各種の実例なども参考にしながら、この館山市にふさわしいやり方で検討する必要があるのではないかと思います。いかががお考えでありましょうか。

次に、83ページをお開きください。衛生費の中でじんかい処理費についてお尋ねをいたします。1億6,951万余円が支出されておるわけですが、昨年の可燃ごみの収集量に対して、今年度は新聞紙など古紙の回収を実施しております。この古紙の回収によって現実には可燃ごみの収集量が減っているのではないかと思います。そこで、この4月から8月までの実績で古紙の回収量はどのくらい具体的にあったのか、またその結果市の直接収集しており

ます可燃ごみの収集量は昨年比でどのようになってきておるのか御説明をいただきたいと思います。

次に、古紙回収事業について — まだ始まったばかりでありますけれども、現在のシステムで果たして今後とも安定して事業が続いていくのか心配するところです。特に、古紙の引き取り価格が大変に不安定で、古紙の市場で在庫がだぶつくと、買いどめといって古紙を引き取らないということもあるようです。古紙の引き取り価格が高くなれば問題は出てきませんが、価格がさらに下がったり、あるいは買いどめという事態が生じたら、せっかくの古紙回収事業がうまくいかなることが考えられます。その際には価格補償の措置をとるなどの制度の検討をする必要があるのではないのでしょうか。そのことがまた業者の不安をなくし、古紙回収事業を円滑に進めていくことになるのではないかと思うのでありますが、この点についていかがお考えでありますでしょうか。

次に、108ページであります。都市下水路費のうち、下水路等調査測量設計委託料 1,329万余円が支出されておりますが、決算に係る主要な施策の成果に関する報告、これによりますと — 54ページであります。都市下水路ということで那古の下水路調査基本計画策定業務が行われております。那古の下水路については、昨今の宅地化の進行によって排水能力が既に限界に達しつつあります。那古下水路の改修は住民の大変期待をするところであります。那古大芝地区の排水についてであります。その流末は那古下水路になっているわけですが、その接続方法に問題があるために雨水排水が大変悪いところがございます。那古下水路の調査の結果、これらの改善措置については検討されておるのかどうか御説明をいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（渡辺昭夫君） 半澤市長。

（市長半澤良一君登壇）

◎市長（半澤良一君） お答えいたします。

第1点は老人福祉総務費に関連しての御質問でございますが、まず小さな1点、高齢者事業団についての御質問でございますが、現在運営規約、就労

細則等を作成中で、あわせてPR用のパンフレットやコーディネーターの配置等10月末に発足できるよう準備を進めております。

次に、高齢者保健福祉推進10カ年戦略についての御質問でございますが、現在国、県から具体的な指示はありませんが、近い将来国においてモデル指針が示されるやに聞いております。いずれにいたしましても、在宅福祉の3本の柱であるホームヘルパー、デイ・サービス、ショートステイは高齢者援護として必要な事業であり、今後国、県の動向を見ながら、地域の実情を踏まえ、積極的に検討してまいりたいと考えております。

次に、小さな第3点、給食サービスについての御質問でございますが、御指摘のように現在館山市社会福祉協議会において地域ぐるみ福祉ネットワーク事業としてひとり暮らし老人等を対象に月2回、また支部単位で年2回もしくは3回、ボランティア、民生委員等の協力により実施しております。さらに今、月2回を月3回にふやすことができないかボランティア団体と協議中でございます。今後も給食希望者の需要を調査し、充実するよう検討してまいりたいと考えております。

次に、じんかい処理費についてでございますが、まず古紙回収による可燃ごみの減量効果についての御質問でございますが、本年4月から8月までの回収量は新聞92トン、雑誌70トン、合計162トンでございます。また、平成元年4月から8月までの市直営によります可燃ごみの収集量は7,406トン、平成2年4月から8月までは7,339トンであり、前年度対比0.9%、67トンの減となっており、着実に減量効果は上がっていると存じます。

次に、古紙回収事業の安定化についての御質問でございますが、事業を実施してからまだ期間も短く、排出量や価格の変動等不確定な要素もございますので、今後の推移により対処してまいりたいと存じております。

次に、大きな第3点、都市下水路についてでございますが、御質問の大芝地区の排水につきましては、元年度実施いたしました那古下水路現況調査の結果、大芝地区は那古下水路の集水区域に含まれております。したがって、今年度実施いたします詳細設計の中で排水経路、流末の取り付け位置等について検討することになっております。

以上、答弁を終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 神田守隆君。

◎11番（神田守隆君） 高齢者事業団については10月中発足ということで、非常にこれが高齢者の生きがい対策ということで大きな成果がおさめられるよう大変期待を持っているところであります。発足してなかなか――発足当初はいろいろジグザグもあろうかと思えますけれども、ぜひ職員の方の御努力も――その辺を含めて頑張っていたきたいなと思えます。

高齢者福祉の関係でありますけれども、この10カ年計画まだ国、県から指針が示されない、近い将来ということですから、ことし1年目で計画年度に入っちゃっているわけですが、まだ示されない国の方の動向もどうしたものかなと思えますけれども、これは消費税の関連でやられたといういきさつもありますから、なかなか実際には準備が進んでいないのかなと思えますけれども、いずれにいたしましてもこうした高齢者福祉の点からは、館山市が非常に高齢者の人口比が高い。もう21世紀の状況に、全国平均に突入しているという状況の認識から、館山市は特に先進地として期待もされるところだろうと思えますので、積極的にこの点については取り組んでいただきたいな、また国の指針が示された中で、館山市の計画をつくる段階で大いに議論もしていかなきゃいけないなというふうに感じております。

最後に、給食サービスの問題ですが、この辺で――今のお話ですとボランティアの方の協力を得ながらということなんでありますけれども、私はボランティアの方の協力というのは、これは非常に大事なことだと思います。その辺は大変評価をするんでありますけれども、しかしそれについてはやはり限界というものもあるんじゃないか、ボランティアという形で考えていく場合は。したがって、給食ヘルパーとかということで、しかし公的なヘルプ事業という位置づけをもって検討をすることが今後必要なんじゃないかなと思うんですが、その辺についてひとつお聞かせをいただきたいんです、御検討の余地があるというふうに考えておられるのかどうか。全国各地でこの15日の敬老の日をめぐって、テレビの報道なんかでも見えていますとそういう取り組みがされている市町村なんかも報道されていましたが、そういう全

国での取り組みも始まっているようですので、ひとつ公的なヘルプ事業として検討するお考えがあるかどうかという点です。

それから、ごみの問題でありますけれども、162トンということで、そうしますと年間ですと、400トン近いごみの減量効果が年間では期待できるんじゃないかなと——今後の推移もありますから言えませんが、この9月からは体制も充実させてやるということになりますから、今までよりも多く出るのではないかなという期待もするんですが、そうしますと大体トン当たり1万7,000円ぐらいの経費の節減効果があるかと思うんですが、その辺——そうすると年間600～700万ぐらいの経費の節減効果といいますか、そういうものが期待できるんじゃないかなと思うんです。そういたしますと、古紙の回収事業について、現在古紙の回収、ごみの減量による市の財政効果、この辺を考えた場合、価格の安定制度なり業者が安定的に事業を実施していけるような方策というのは十分——そういう見合いを考えた場合は財政的にも十分根拠のあることじゃないかなと思うんですが、その辺——確かに始まったばかりだから先行きがまだよくわからんという面もあるんですけれども、しかし現実にはそういう事態に立ち至ってから云々というんではこれはいけないわけですから、ぜひ御検討をいただきたいと思うんですが、その2ついかがですか。

◎議長（渡辺昭夫君） 民生部長。

◎民生部長（佐藤澄雄君） まず、給食サービスの公的な面をどういうふうに考えているかということでございますが、市長答弁にもありましたけれども、現在受けている人、これから受ける希望のある人、そういう方たちのニーズの把握をさらにきめ細かくいたしたいというふうに考えているわけです。給食のメニューの問題、それから個人個人の好き嫌い——いわゆる嗜好の問題、それから有料化といいますか、公的にやるということになると、これは毎日やるというようなことも含めて、当然現在のような無料というわけにはまいらないんじゃないかということでございます。こういうような問題が大変ありますので、民生委員の方々が現在臨戸実態調査をされておりますので、その調査結果見ながら館山市に合った方法——いわゆる行政型がいいのか、

民間委託の方法がいいのか、現在のようなボランティア型がよいのか、行政サイドだけでなく、福祉協議会や民生委員の方々、そして受ける側のお年寄りの方々、そういう方々と一緒になって考えていきたいというふうに考えております。

それから、2つ目の古紙回収事業の関係でございますけれども、考え方としては、あくまでもこれからの推移を見ながらそういう方向も、御指摘の方向も含めまして十分に検討していきたいというふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（渡辺昭夫君） 以上で11番議員神田守隆君の質疑を終わります。

以上で通告者による質疑を終わりますが、通告をしない議員で御質疑ありませんか。

山中金治郎君。

◎13番（山中金治郎君） 通告はしてございませんので、1点だけお聞かせ願いたいと思います。

まずその前に、非常に財政事情の厳しい館山市を半澤市長さんには16年間の長きにわたって市政を執行していただき、本当に御苦労さんでございました。この元年度の決算書を見ますと、公債費の比率が14.2%と非常に改善されました。一時は20.1%まで落ち込んで非常に厳しいところまでまいりましたが、市長さん初め財政当局の御努力で非常に改善をされた。今後は大きなプロジェクトを幾つか抱えてございますが、それらを実施するに当たりましての予算規模の拡大ができるまで財政規模が改善されたという点につきまして、市長さんの御努力に対し深く御礼を申し上げる次第でございます。本当にありがとうございました。

そこで、1点だけ質問させていただきますが、それはこの決算の意見書ですか、これがちょっと見やすいもんですからこれによって行いますが、この42と43ページの歳入の款別集計表というのがございます。これを見ますと、当初予算額と補正予算額ですか、いわゆる予算現額の計と決算額の計を比較しますと、市債、地方譲与税、ゴルフ場利用税交付金、自動車取得税交付金、地方交付税と諸収入、この合計が7億4,000万強の差が出ております。結局

これが当初予算や補正に出ていなかった。これは計算ができなかった。いわゆるその予見が、歳入見込みが甘過ぎたんじゃないか。ですから決算になって7億4,000万幾ら残った。そこで、繰越額が——来年度への繰り越しが5億3,400万強繰り越し、いわゆるよく使われる黒字決算ということで、ことしもよくできましたということであるわけですが、7億4,000万といえますと、この決算額の概算が約0.6%、非常に大きな金額でございますが、それで支出の方になりますと、いわゆる財源がないということで切り詰めてこられた。ですが、これだけの金額がもし補正のときにでも見込めればもっと事業ができたんじゃないかということで、非常に私残念だと思います。ですから、これがどうしてこれだけの大きな数字が歳入に見込めなかったのか、その点だけひとつ財政当局に質問させていただきます。

◎議長（渡辺昭夫君） 総務部長。

◎総務部長（二通英雄君） 御承知のように、元年度の決算におきましては形式収支が5億5,898万4,000円というふうになっているわけでございますけれども、その内容でございますけれども、歳入の超過が3億8,212万3,000円、歳出の不用額が1億7,686万1,000円ということでございます。それから、繰り越し事業分で2,425万3,000円となっております。この歳入超過の内訳でございますけれども、12月補正以降判明したということでそれ以後の補正に組めないということですが、その中身といたしましては地方交付税の追加——財源対策債とか地方振興基金等でございますが、それと特別交付税におきましてまた2,000万多くを見込めたということでございます。それから、競輪事業で予想外に入ってきたのが4,000万、それから税收において特別土地保有税の方で3,200万、それから土地の売り払い収入として7,000万というふうになってございます。これはバイパスにかかわるものの土地売り払いでございますけれども、それからさらに不用額において老人保健繰出金の方が2,100万ということで、これらによりまして結果的に決算剰余金が出たということでございます。その見積もりの甘さということでございますけれども、12月補正以降ということでございましたので次の補正に組めなかった。

いずれにいたしましても、市税の見積もり、積算につきましては、経済の動向、特に経済成長率を参考といたしまして積算しておりまして、平成元年度の経済成長率が政府の当初見通しが４％でございましたけれども、年度末には５％に修正されまして、それによりまして当市のみだけでなく、国、地方ともに全国的に税収が著しく伸びる結果となったものでございます。山中議員さんのおっしゃるように、しかしながら正確な見積もりが望ましいわけでございますので、今後はより一層精度の高い税収の積算に努めてまいりたいと存じます。

以上です。

◎議長（渡辺昭夫君） 山中金治郎君。

◎１３番（山中金治郎君） 答弁よくわかります。私も質問する前に大体の答弁はそういうことだとわかりますけれども、非常に頭脳明晰な財政当局の皆さんでございますので、我々の素人と違いますんで、恐らくもっと見込めるんじゃないかという考えもあるわけで質問したわけでございますが、どうか税金でございますので、収入はもう少し厳しく見込んで予算を執行していただけるようお願いをいたしまして、質問を終わります。

◎議長（渡辺昭夫君） 他に御質疑ありませんか。 — 御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

決算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任

◎議長（渡辺昭夫君） お諮りいたします。

ただいま議題となっております認定第１号乃至認定第７号平成元年度各会計決算につきましては、１０人の委員をもって構成する決算審査特別委員会を設置し、これに付託の上審査することにいたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

◎議長（渡辺昭夫君） 御異議なしと認めます。よって、決定いたしました。

重ねてお諮りいたします。ただいま設置されました決算審査特別委員会委員の選任については、委員会条例第５条第１項の規定により、

1 番議員 脇田 安保君	3 番議員 田沢 勝信君
6 番議員 山崎 雅己君	9 番議員 山口 康雄君
1 2 番議員 榎本 春光君	1 6 番議員 石井 昌治君
1 7 番議員 石井 謀君	1 8 番議員 日下 君敏君
2 3 番議員 流山源次郎君	2 7 番議員 林 豊君

以上10名を指名いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(渡辺昭夫君) 御異議なしと認めます。よって、ただいま指名いたしました10人の諸君を決算審査特別委員会委員に選任することに決しました。

ただいま選任されました決算審査特別委員会委員の方々は、後ほどこの議場において正副委員長の互選を行いますので、御了承願います。

延 会 午前10時32分

◎議長(渡辺昭夫君) お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

◎議長(渡辺昭夫君) 御異議なしと認めます。よって、本日はこれにて延会することに決しました。

なお、9月19日から9月25日まで委員会審査のため休会、次会は9月26日午前10時開会といたします。その議事は、議案第37号及び議案第38号、認定第1号乃至認定第7号に係る委員会における審査の経過及び結果の報告、討論、採決並びに追加議案の審議等といたします。

この際申し上げます。各議案等に対する討論通告の締め切りは26日午前9時でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

- 1 認定第1号乃至認定第7号
- 1 決算審査特別委員会の設置・付託・委員の選任